

内装に宇奈月産大理石

首都圏

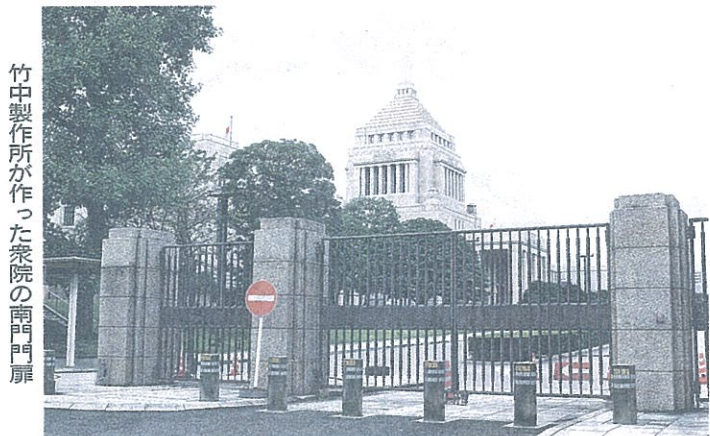
スポット

富山ゆかりの地へ

18

国会議事堂

東京都千代田区



竹中製作所が作った衆院の南門扉

1936年に完成した国会議事堂。木材や石材、敷物などの多くが国産材で賄われているのが特徴で、内装の一部には、現在の黒部市宇奈月町下立で採られた大理石「オニックス・マーブル」が使われている。現在では採石が難しい希少な部材で、その美しさは建設から80年がたった今も色あせることがない。議員登院表示盤がある衆院正

高岡の技術が門扉に

玄関を入ってすぐのホールには、エレベーターを挟むように構える柱、近くの階段の手すりや内壁にオニックス・マーブルが配されている。薄い黄色がかかった波打つしま模様美しく、重厚感もあり、荘厳な雰囲気によく合っている。石は参院の玄関ホールや、中央広間に並ぶ板垣退助、大隈重信、伊藤博文の銅像の台座にも使われている。



北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅の内装にも活用され、今年は日本地質学会に「富山の石」として認定されたことで話題になった。国会議事堂建設後に大蔵省がまとめた「帝国議会議事堂建築報告書」によると、内装用の石材は見た目の美しさを重視

衆院正玄関横から続く階段のてすりや壁にも使われている

し、全国から30種類以上が切り出された。県内はオニックス・マーブルだけだった。

「特別な部材」

石材について詳しく記した「新版議事堂の石」（新日本出版社）によると、オニックス・マーブルは、温泉水の石灰分が沈殿してできた堆積物「石灰華」の大規模なもの。岩体が厚さ10センチ幅30センチと小さく、当時は傷を

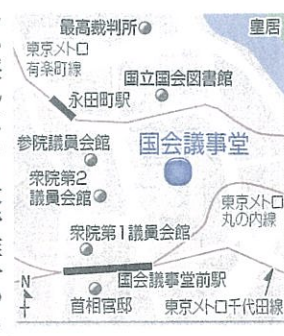
衆院正玄関ホールのエレベーターを挟むように配置されたオニックス・マーブルの柱。独特のしま模様が目を引く。東京都千代田区

付けず採石するのに苦労したという。

黒部市吉田科学館の学芸員で、古生物学専門の久保貴志さん(38)は「陸上の温泉でできたと考えられる珍しい石。下立で

タテヤマスギも

石だけではない。国会の門扉には、「高岡の技術」が生きている。南砺市井波地域を発祥の地とする松井建設(東京都中央区)が元請けとなった国会議事堂の改修工事のうち、門扉は竹中製作所(高岡市長慶寺)が担当。2003年と04年にステンレス製の大型の開き戸を衆参両院の正門などに納めた。



メモ

国会議事堂は東京メトロ国会議事堂前駅か、永田町駅が最寄り。参観は気軽にできるが、衆院と参院でそれぞれ受付窓口が異なる。両院とも10人以上で入る場合は事前申し込みが必要になる。問い合わせ先は衆院が電話03(3581)5111、参院が電話03(5521)7445。

前庭には議会開設80年を記念し、1970年に全国から贈られた「都道府県の木」が植えられており、県代表は「タテヤマスギ」。国会議事堂を設計した故大熊喜邦は富山県庁の設計顧問を務めたという縁もある。足を運ぶことがあれば、国会議事堂の中にあるさまざまな「富山」を探すのも楽しいかもしれない。

(東京支社編集部・土居悠平)